

いなむら市長の「い〜なこの街 尼崎」 6月

テーマ：「環境月間」について

DJ(林)

さて、6月は環境月間ということで、今回は環境についてお話を伺いたいと思います。

市長

はい。地球温暖化による気候変動によって、今、世界中で様々な異常気象が起っています。

地球温暖化は、大量生産、大量消費といった今の私たちの社会経済活動が要因だと言われています。

環境への負荷を減らしながら、持続的な社会経済活動を行える循環型社会への転換が今、本当に求められています。

DJ(林)

温暖化によって水不足が発生したり干ばつが増えたりと、各地で色々なことが起っていますよね。

本当に、地球全体で考えていかなければならない問題だと思います。

市長

はい。地球温暖化による脅威を避けるためには、全世界で温室効果ガスの排出量を 2050 年までに現在の状況から、少なくとも半分に減らすこと。

特に、先進国では 80 パーセントの削減が必要だとされています。

また、東日本大震災の原発事故により、日本全体のエネルギー政策の見直しが迫られています。全国的に省エネ、節電の必要性が高まっています。

尼崎市においても、省エネや節電の取り組みについて市民の皆さまにもご協力をいただきながら進めていきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。

DJ(林)

お願いいたします。

こうした問題には、私たち一人ひとりの取り組みが大切ですよ。尼崎市では、どのような取り組みを行っていかれるんですか？

市長

はい。尼崎市では、5つの対策を進めていきたいと考えています。

まず1つ目は、家庭や事業所での自然エネルギーの利用を促進したり、公共施設に自然エネルギーを率先して導入したりして、「自然エネルギーの利用をふやしていきます」。

2つ目は、省エネ製品の普及や環境学習の促進などに取り組む「市民のライフスタイルの変革をすすめていきます」。

3つ目は、環境に配慮した事業活動を促進・応援して、「産業のグリーン化をすすめます」。

4つ目は、マイカーを使わずに徒歩や自転車、公共交通機関で移動しやすいまちづくりを推進したり、エコカーとエコドライブの普及に取り組んだりして、「快適で住みやすい低炭素型街づくりをすすめます」。

す。」

最後に 5 つ目は、ごみの減量化や、再利用、そして資源化を促進し、「資源を無駄なく使う循環型社会をつくります。」

DJ(林)

はい。ごみの減量化や再利用っていうのは、私たちにとって最も身近で、取り組みやすいことですね。

市長

はい。実は、家庭や事業所から排出されるごみの中には、資源化できる紙類が本当に多く含まれているんです。

ごみ袋に入れて捨ててしまえばただのごみになってしまう紙類も、紙資源として収集できれば、立派な資源となります。

資源化できる紙類をよりたくさん収集するため、平成 25 年度から「紙類・衣類」の収集回数を現在の月 2 回から週 1 回に増やして、「燃やすごみ」の収集回数を週 3 回から週 2 回に減らすなど、ごみ減量のさらなる強化をすすめていきたいと考えています。

尼崎市では現在、第 1・第 2 の 2 つの施設の焼却炉でごみを燃やしています。

けれどもそのうちの第 1 工場は、施設の老朽化など、今のままですと平成 37 年以降に立て替えをしないといけないんです。

DJ(林)

そうなんですか。

市長

その費用は、立て替えだけでおよそ 56 億円。また、運転経費は、年間およそ 5 億円もかかっています。

もし、皆さん一人ひとりのご協力でごみの分別を徹底できれば、燃やすごみの量が減り、2 つではなく、1 つの施設の焼却炉だけでごみを燃やすことが可能となります。

立て替え費用やその運転経費に多くのお金を使わなくてもすむようになれば、例えば、高齢者の方や障害者の方、子育て支援や学校教育などの政策にお金を使うことができるようになります。

限られた資源を大切に使うってごみを減らすことは、地球環境はもちろん、市の政策の充実にもつながり、様々なメリットがあります。

だからこそ、是非市民の皆さま一人ひとりがしっかりとした意識を持って、一緒に取り組んでもらいたい、そんな風に思います。

DJ(林)

ほんとですね。

尼崎には、45 万人の方が住んでいらっしゃいますので、例え小さな取り組みでも皆さんが一つとなって取り組んでいけば、大きな取り組みとなっていきますよね。

そういえば、尼崎市は、全国のNGOが主催している「日本の環境首都コンテスト」でも、その取り組みが評価されて、毎回上位に入っていましたよね。

市長

はい。そうなんです。毎回高い評価をいただいています。

3月末にも2010年度の第10回目のコンテストの結果をいただきまして、今回は、全国58の自治体中、総合で5位。前回の8位から3つ順位をあげることができました。

DJ(林)

すごいですね。総合で5位とは。

市長

はい。実はこの「日本の環境首都コンテスト」、今回で最後なんです。

2001年から開始されたんですけども、当初から2010年まで、全10回という予定で始まったそうで、今回のコンテストが第10回目となり、予定通り最後となりました。

DJ(林)

残念ですね。

市長

はい。尼崎市では2001年の第1回目のコンテストから毎回出場させていただいて、全10回のコンテストで全て10位以内に入賞しているんです。

これは、全国で尼崎市だけなんですよ。

DJ(林)

日本で唯一、全10回のコンテスト全てで10位以内に入賞したんですか？それはまたすごいですね。

市長

はい。そうなんですよ。ちなみに、これまでの最高順位は、第4回の時の総合4位。この時は75の自治体が参加していました。

また、政令指定都市を除く人口30万人以上の自治体の中では、尼崎は毎回3位以内に入っていたんですよ。

DJ(林)

すごいですね。どのようなところが評価されていたんですか？

市長

今回は、温暖化の防止や環境学習の項目で高い評価をいただきました。

DJ(林)

そうですか。環境学習といえば、尼崎市では、昨年の4月に「あまがさき環境オープンカレッジ」を開校して、様々な所で色々な環境学習を行っていますよね。

市長も学長として就任なさっているんですよね。

市長

はい。そうなんです。町じゅうをキャンパスとして、様々な場所で環境学習を行っています。

最近では、植樹体験ができる「尼崎の森づくり体験講座」や「エコあまフェスタ 2011」などのイベントを行いました。

あまがさき環境オープンカレッジで開催する催しなどは、毎月皆様のご自宅へお配りしている市報あまがさきなどで記事を掲載しています。

エコで楽しい催しをたくさん行っていますので、皆さん是非、参加してください。

DJ(林)

私も市報あまがさきを毎月楽しみにしていて、いつも拝見しておりますけれども、確かに、環境に関する催しがたくさん載っていますよね。

そういえば、今回は「あまがさきエコプロダクツグランプリ」という、これまでに見たことのない記事が載っていましたけれども、これはどういったものなんですか？

市長

「あまがさきエコプロダクツグランプリ」は、今回初めて行う試みなんですけれども、市内で製造される、環境への負荷が少ない優れた製品を審査して、表彰するコンテストです。

省エネルギー、省資源、長寿命化など幅広い観点から審査をしてグランプリを決定します。

尼崎市はものづくりのまち。多くの技術があり、多くの達人がいらっしゃいます。市内の企業を対象に、7月1日から8月24日まで募集していますので、企業の皆さんの優れた製品の応募をお待ちしています。

DJ(林)

色々な企業の方に参加していただくことでこのグランプリが盛り上がって、これをきっかけにまた、さらに環境負荷の少ない製品が誕生していったら嬉しいですよね。

市長

はい。尼崎の技術が環境への負荷の軽減に貢献をしているということ。市民の皆さまにも、もっともっと知ってもらいたいと思っています。

「環境首都コンテスト」は、2010年10回目で終わりとなりましたが、尼崎市はこれからもどんどん、こういった新しい取り組みを継続していきたいと思っています。

そのためには、市民や事業者の皆さま一人ひとりの取り組みが本当に大切になってきます。

皆さまも地球環境を守るために、地球に優しい生活をぜひともお願いしたいと思います。

DJ(林)

はい。稲村市長、本日もありがとうございました。

市長

はい。ありがとうございました。